

鶴ヶ島生産センタ稼働開始

中期経営計画「BEACON 2030 Phase II」において「グローバルサプライチェーンの進化」を重要施策の1つに位置付け、マルチプラント生産体制の構築を進めています。2026年3月、センサ類など消耗品生産のマザー工場として鶴ヶ島生産センタが稼働を開始しました。ディスプレイ消耗品の拡販に注力するとともに、海外における消耗品事業を拡大するため、自動化生産体制の強化、消耗品のラインアップ拡充に取り組み、グローバルでの需要拡大に対応します。

また、工場の新設および運用にあたっては、日本光電の環境理念、環境方針に基づき、事業活動と環境保全の両立を重視しています。太陽光発電設備の導入や雨水の有効活用など、再生可能エネルギーの活用と資源循環を推進するとともに、自然環境に配慮した施設設計により環境負荷の低減を図っています。これらの取り組みにより、ZEB認証において最高ランクである「ZEB」※を取得しています。同センタの稼働にあたっては、周辺環境の調査を実施し、工場運営と自然環境・地域環境との共生の観点から、自然資本への依存および影響の把握を進めました（詳細は[生物多様性のページ](#)をご覧ください）。生物多様性の保全や水資源の持続的利用など、自然資本への配慮を一層強化していきます。

※ ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ゼブ））：省エネと創エネにより、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにした建物。

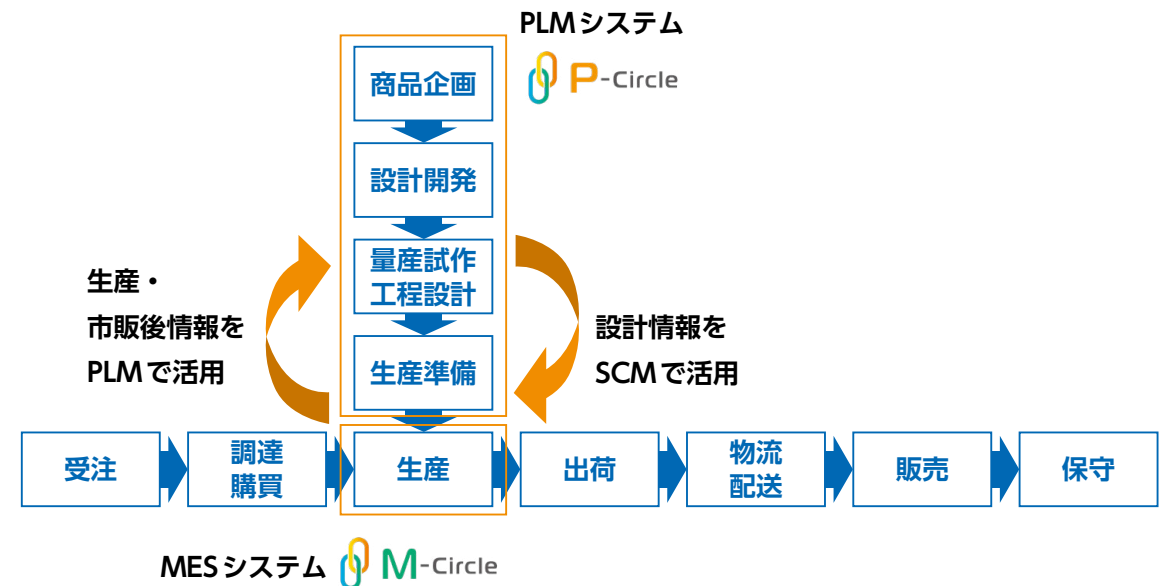


鶴ヶ島生産センタ

PLM/MES※システムの導入

中期経営計画「BEACON 2030 Phase II」では、計画達成に向けた3つの指標の1つである「成長性」の実現に向け、「製品競争力の強化」を重要施策として位置付け、タイムリーな製品供給体制の構築に取り組んでいます。

また、「グローバルサプライチェーンの進化」に向けては、コーポレートDX推進の一環として、技術開発・生産基盤のデジタル化を推進するPLM/MESシステムの導入を進め、2025年9月にPLMシステム、11月にMESシステムが稼働開始しました。両システムの運用を軌道に乗せることにより、製品ライフサイクル全体のプロセスを最適化し、新製品開発期間の短縮、生産性の向上を目指します。



※ PLM (Product Life-cycle Management) :製品ライフサイクル管理、MES (Manufacturing Execution System) :製造実行システム。